SKI Instructor of JAPAN

INSTRUCTOR

日本ｽｷｰ指導者協会会報

2003年11月 1日発行　第19号

巻頭言

ニュージーランドの一面

会長　田　英　夫

スノースポーツ活性化の参考として

スキーと観光で馴染みの　ニュージーランド

キャサリン・ディザート女史の成功より

スキーの好きな人達にとっては、ニュージーランドといえば "おなじみ" の国かもしれない。同国を訪ねてスキーを楽しまれた方も多いと思う。季節が北半球の日本と全く逆だから、日本の夏がニュージーランドではスキー・シーズンというわけで、日本のトップ・クラスの選手も夏のトレーニングの場にしている人もいるようだ。

私は残念ながらニュージーランドで滑ったことはないが、別の意味でニュージーランドに注目し、何度か訪問したこともある。私が最初に同国を訪れたのは、１９８５年デビッド・ロンギ首相が率いる労働党政権がアメリカの核兵器を積んだ軍艦のニュージーランドへの入港を拒否するという思い切った態度を表明した直後だった。ニュージーランドとアメリカは、日米安保条約のような「アンザス条約」という安全保障条約をオーストラリアと三国で結んでいるいわば同盟国で、一般国民の中に「草の根」のように根を張った”非核”の思いがあることだった。その根を作ったのはまさしく市民運動だった。当時、同国の最大の都市オークランドの女性市長だったキャサリン・ディザードさんが中心になって「非核の家」という運動を息長くやってきた成果だった。それは、１０センチ四方の小さなシールで表はニュージーランドの地図と進入禁止の交通標識を組み合わせた図柄に「非核」と書いてある。それを各家々の玄関や車のガラスに貼るのだ。一つの道路に面した家々に全部このシールが貼られると、その通りに「非核ストリート」という道路標識のような標識が立ち、その街の全道路にその標識が立つとその町が「非核の町」になる、というやり方を何年もかかって続け私が行ったときには、ニュージーランドは全国がいわば「非核国家」になっていた。こうした国民意識があったから同盟国のアメリカに対しても思い切った態度がとれたし国民の支持も得られたのだった。ちなみにニュージーランドは前記のような国民意識があるから保守系の国民党政権になってもこの「非核政策」は揺るがない。

以上は、スキーでおなじみのニュージーランドの別な一面をご紹介したが、私たちは“自然“と“人間“との共生に大きな役割を果たすと考えられるスノースポーツの活性化に努め、また正しいスキーを教える組織として発展させて行きたい。

雪でスポーツしよう　1月12日　スキーの日制定

低迷しているスキー界の活性化、スノースポーツ人口の増加を図るために、そしてスノースポーツの素晴らしさを理解してもらうために、シーズンに向けてスノースポーツ関連団体が三位一体となって、積極的に活動することになりました。
「場」の立場で(財)日本鋼索交通協会、ユーザーに対して「サービス」として(財)ＳＡＪ、(社)ＳｌＡ、「もの」では(社)日本スポーツ用品工業会、日本スポーツ用品輸入協会、全体的なこととして、全国スキー場安全対策協議会の６団体です。

◎「１月１２日　スキーの日」
活動の目玉の一つに「１月１２日スキーの日」を制定しました。
１月１２日にした理由は、オーストリーのレルヒ少佐が今から９３年前の１９１１年、新潟県高田、現在の上越市において、日本で初めてスキーの指導をされた日であり、この日を契機に日本は、冬の近代スポーツとしてスキーが急激に発達をとげ、現在に至っていることによるものです。この日が日本のスキー事始めであると同時に、はじめて体系的にスキー指導を受け、雪山でのスキーの持つ素晴らしさの魅力に取りつかれた最初の日です。
具体的には、「場」の代表として(財)日本鋼索交通協会では、１月１２日、全国のスキー場(任意)において、スキー・スノーボードを楽しんでいただくために「スキーの日」にちなんだ多彩なイベントを実施します。「サービス」では、(財)ＳＡＪ、(社)ＳｌＡの公認校が、初心者を対象とした特別レッスンの企画などを展開することになっています。「もの」の方では、１月１２日のスキーの日に、「雪でスポーツしよう in 苗場」を開催します。スキー・スノーボード用品、用具の無料試乗会、新商品モニター展示と、(財)ＳＡＪ、(社)ＳＩＡが協力して、日本のデモによるショートスキーを用いた楽しく学べるスキーの新システム「らく楽スキー学習会」を開催します。
これらは、初年度とあって、全国統一された展開には至らないとは思いますが、今後大きなうねりにしてゆかねばならないと考えています。
また、全国スキー場安全対策協議会では、スキー安全ポスターに「１月１２日　スキーの日」「雪でスポーツしよう」の文字も入れて、スキー場や全国小売店頭で告知ポスター展開をします。

◎「スキーコースの難易度表示の全国統一」
２番目は、スキーコースの難易度表示の全国統一を実施します。ユーザーの立場に立って、安心して全国どこのスキー場でも自分に合ったコースを的確に安心して選べるようにし、安全で健康的なスノースポーツを体験し、楽しむことのできる機会を提供します。
これらは、冒頭にも述べましたが商業的な活性化だけにとらわれるのではなく、一面白銀におおわれた自然の中で楽しむ、スノースポーツの素晴らしさを理解してもらうのが大きな目標となっています。それに関連して「スキーと健康について」その一部を述べます。

◎「スキーと健康について」
スキーは身体に優しいスポーツです。
近年、スキー用具の目覚しい進化により、従来、スキーは危険、体力が人並み以上に必要という既存の認識が覆されました。
特に、スキーはフットワークを使うことにより、百歳を迎える中で、積極的にスキーに挑戦している三浦敬三さんが証明されているように、中高年の方々が失われがちな敏感性が養われます。
更に、スキーは他のスポーツには無い、左右バランスのとれたスポーツであるといわれています。すなわち、子供から大人まで最適なスポーツであります。
具体的には、
・カービングスキーの登場により、スキー技術での肩と腰のねじれが必要でなくなり、腰への負担が軽減されました。
・スキーの滑走姿勢は、自然と腹筋が強化され、腰痛のための運動療法とほぼ同じ効果があるとされています。特に中高年には朗報です。
・有酸素運動効果として、スキーの回転競技は、陸上競技の400ｍ、大回転競技は陸上競技の800ｍと同様な心肺活動が体内で行われます。
すなわち、スキーは自然に、有酸素運動効果があり、体内脂紡の消費エネルギーの向上、肥満対策に効果があるとされています。楽しむスキーも、競技ほどハードでなくても、同様なことが言える訳です。
・また、現在、マイナスイオンが人間の健康にいろいろな面から大変効果があることが実証されています。特筆すべきは、白一色に覆われた雪山という自然環境は、マイナスイオンの発生が一番多いと実証されています。すなわち塵灰の極めて少ない雪山では、マイナスイオンの効果が高まり、アレルギー体質には有効であるとされています。
これらを私たちはもっともっとＰＲする必要性を感じています。その意味において、(財)ＳＡＪでは昨年、９８歳の三浦敬三さんに現役スキーヤーとして人々に夢と希望を与え、スキーの普及発展に多大な功績のあったことをたたえ、競技関係者以外では初めてと思いますが、「顕彰」を贈呈し、名誉会員の称号も贈りました。そして今年、９９歳でモンブランのバレーブランシェの滑走に成功し、更に三浦雄一郎さんと親子そろって総理大臣表彰を受賞されたことは、大変うれしいニュースでした。
私たちスキー指導者は、これらをふまえ、スキー指導においては「技術指導主体」でなく、もっと高い視野に立って、雪山の自然環境の中での「学習指導主体」にしたものであるべきと、考えています。言いかえれば、「教え導く」の導くにウェイトを多くしてほしいと願っています。
この様な考えのもとに、事業を展開いたしました。日本スキー指導者協会におかれても、この主旨をご理解いただき、ご協力の程をお願いし、貴協会の今後益々のご発展を祈ります。

(財) 全日本スキー連盟
専務理事　丸山　庄司
日本スキー指導者協会特別顧問

マス・スキー指導　―雑　学―

自然との共生および国際化を謳ってから３０余年たつが、この国ではスキーのマテリアルやスキー操作のメカニズムへの対応に追われ過ぎているように思われる。スキー先進国ではレーサーや技術志向のホビースキーヤー以外のマス・スキーヤーには指導者は自然への誘いと感動を共に享受しながら自己の存在を確認している。即ちゲレンデの中で自然へのガイドと長く滑走させながらスキーヤーの運動機能を、ヴェアリアブルに表現させている。

現今のスキーヤーは、多種多様から多趣選択をしている。共存というのは抽象から体験的感動へと誘う。海外の人はすぐ「人口は？」、「地域産物は」、「植生物は」、「郷土食は」と問うが、日本のスキー指導者で明快に応えられる人は少ないと云う。但し酒食に関してはレクチュアもして痛飲させるという…。どうも吾々はホワイトシーズンとグリーンシーズンの自然の生態に無関心では無かったか。少なくとも指導するテリトリーでの自然の生態（山、川、樹木）を熟知し、その活用を認識してのスキーヤーでありたい。スキー場における多くのファシリティへ関与したり助言をするなどの積極性を持ちたい。

また、国際化と謳いながら世界の通用語になっているターミノロジーに関心が薄く、１９８０年「国際スキー用語集」ＩＶＳ制定を福岡孝行、菅　秀文、福岡孝純（独、英、仏）で翻訳したが、プロ教師（ＳＡＪ，ＳＩＡ）が７０％、アマ指導員２５％、専門学校で５％の購読であった。

スキー用語のルーツあるいは国際的認知度の高いものを更に周知するために１９８６年の吾々が編著した「日本スキー教程」にも詳述し、アジア（中国、韓国、他）でも活用されているが、我が国のアマ指導者には十分な普及がない。これらのターミノロジーからのスキー技術の指導伝達にイニシエーション（奥儀伝授）へのスポーツ指導では現今のスキーヤーは退屈してしまう。これまでのフレームワークを具体的に変えることが急務であろう。日本人があまり試行しなかった抽象（技術論）からのヴィジアライゼーション（視覚化）する工夫が不可欠な指導法では無かろうか。

レクリエーショナルスキーは楽しくなければ興味を持たなくなる。楽しいスキーはエアロビクスであり、チャレンジスポーツのように筋力を余り必要としない下降運動であると、アメニティ性を持たせることが必要であろう。その上で、各人の持っているポテンシャルを引き出すことで快適さと自信を持たせる。2002年４月の第２回フェスタでフリー滑走中に、今は故松浦先生を始めとした一団は、私の滑りは変則だと言ってティタイムの話題とした。水島幹事長だけが「ムルメルスキイング」でこの状況では最も理にかなった滑りであると高い評価をした。２００２年の調査ではフォーマ・スキー65％、カーヴィングスキー３０％、ミニスキー５％の使用とあり画一的、偏向的スキー指導では一般スキーヤーの満足は得られないだろう。スキーの性能別、環境の状況別などのヴェアリアブルな指導こそ時代のスキーコンセプトを超越しての今後の指導員の使命と私考するものである。

日本スキー指導者協会
名誉会長　菅　秀文

スノースポーツ指導者の総合商社を目指して

○指導員から指導者への伸展

日本スキー指導者協会は新生２０年を経過しました。組織としては指導員から指導者へと実質的に伸展しつつあると判断しています。日本の指導員制度はやがて６５年を迎えますが、スキースポーツの変遷に対応してその本質を目指して連綿と伝統を築いてきました。その間スキー技術面では諸外国の影響を大きく受けてきましたが、指導員制度については日本独自のスポーツ文化として定着して来ました。

○スキースポーツの停滞現象と指導者自身の問題点

スキー場から目立ってスキーヤーが減少している現象はいろいろの理由が挙げられますが、以外にも指導者自身の中にこれらの理由が埋没してしまっているのではないかと危惧される面があると思います。

本来指導者はこの複雑な時期であっても、スポーツ指導者としての意志を持ち、伝統的なスポーツ文化を積極的に推進しなければならないわけであります。

専門分野としてのスキー技術から考えても、変遷する経過の中で常にその本質とする要素を的確に見極めていく研鑽を怠りなく継続することは当然であります。要するに指導者として、生活そのものとしてスポーツ文化への認識を持つか否かによって、その後の結果に大きく表れると思います。

○最近のスポーツ文化への転換期を迎えて

特に私たち指導者が留意すべき課題は、スポーツに対する手段論と目的論であります。現在までのスポーツ文化としての捉え方の傾向としては、スポーツの外的要因を達成していくという傾向が大半を占めてきていると思われます。しかし今後は、スポーツ自体の主体的要因を目ざして取り組む方向にも転換すべきと考えられます。

この事は、スポーツ本来の考え方に集約していこうとする理念であります。念のためスキー教程のスキー指導者の役割の中に「より高い指導技術に加え、より深い専門知識、より深い教養とより豊かな人間性を備えていること」と書かれております。あえて書き添えさせていただきましたが、改めて考慮すべきと思っております。

○スノースポーツ指導者の総合商社として

日本スキー指導者協会は多くのスポーツ指導者組織と連携を保ち、全日本スキー連盟をバックアップしていくという広範で包容力のある組織になりたいと願っています。

そして多くのスポーツ愛好者から親しまれる組織でもありたいと思います。

北海道スキー指導者連盟
副会長
中村　敬二郎

スキーと怪我
全日本スキーマスターズ完全制覇への夢

スキーは安全なスポーツであるが、時と場合によっては生命の危険もある。特にアドベンチャーや競技においてはその度合いが高い。私の場合は平成１２年の左膝十字靭帯前後共断裂、同１４年左足腓骨と果骨骨折という経験がある。６０歳代まではスキー普及という指導員の責任を果たすべく、小中高大学、一般市民と幅広い断層の指導に当たった。度重なるスキー理論の変遷とスキー用具の改革に追いつくために一生懸命だった。

７０歳を契機に永年の夢だった競技スキーで大回転に挑戦してみようという矢先、十字靭帯断裂という致命的な大けがをしてしまった。大コブの穴での事故だった。これで自分のスキー人生も終りかと思った。すぐに膝の手術の名医がいると聞き、その病院で診断をしてもらった結果は思った通り十字靭帯断裂ということだった。問題は７０歳という年齢で移植手術が出来るかということだった。医師の言うには、60 歳位が限度でそれ以上の移植手術の経験が無いという。しかし私の脛を見て筋肉の状態が良いのでやってみようと言うことになった。手術は一ヶ月のリハビリで筋力を高めてからということになり、ブラブラして力の入らない膝を中心にした筋力アップのリハビリと筋力トレーニングを行なった。医師からの指示の他に自分で考案したリハビリも実施した。この一ヶ月のリハビリで自分でも信じられない結果が出た。松葉杖無しで普通に階段の昇り降りが出来るようになったのである。一週目、二週目と徐々に松葉杖から片杖、杖なしと筋力を高める工夫をして､スキーを滑れる事を夢みてリハビリに励んだ。

手術が開始され、無事移植手術が終わった。麻酔から覚めたころ医師が部屋を訪れ、手術が成功したことと、膝の軟骨が若々しくすばらしかったとの事だった。後はリハビリと筋力トレーニングを如何にするかである。リハビリをしながら一ヶ月の入院生活が終り、ようやく歩けるようになった。外に出て散歩した時青空がなんと眩しかったことか。すべての花が美しかった。四月からは徐々に走り込み筋力トレーニング、リハビリと本格的な冬のためのトレーニングに時間をかけた。十二月末の指導員実技研修がどの程度滑れるか、全日本マスターズに出場出来そうかを判断する良い機会だった。何とか三日間の研修を会員と同じように滑る事が出来た。

これで滑れる自信ができ、基礎練習とポール練習を毎日のように実施し、三月の妙高での全日本マスターズ大会に備えた。何とか予定通りの練習ができ、２００１年全日本マスターズ大会に出場した。結果は第一戦二位、第二戦三位だった。優勝まで１００分の３秒差だった。それからは２００２年全日本マスターズ優勝が目標となった。しかし三月にまた骨折してしまった。これで全日本優勝の夢遠のいていった。でも諦めるわけにはいかない。退院後はまた新しい気持で２００２全日本マスターズに向かってトレーニングを開始、冬に耐えられる体力を培った。２００２年全日本マスターズが旭川カムイリンクスで実施され、遂に第二戦　で念願の優勝を果たす事ができた。二位には 2 秒 72 の大差だった。この年も膝の状態が充分ではなく、膝に水が溜ったりして治療しながらの優勝だった。

２００３年全日本までには、もっと膝の状態を整え筋力アップをして臨む決意をかため、雪が消えるのを待ちトレーニングを開始した。十二月の降雪と共にスキーの実践練習を始め、特にカービング滑走のより良い滑りを求めてポール練習に励んだ。目標は完全優勝である。

２００３年全日本マスターズ大会は猪苗代スキー場で開催され、晴天の第一戦は目標通り優勝できた。第二戦は風と雨の荒れた大会だったが、二位に 1 秒 50 差の勝利だった。靭帯断裂を克服し三年目で全日本マスターズ大会完全優勝の夢を果たす事ができた。怪我の回復の早かったのは、リハビリの他にグルコサミンやバイオ等軟骨を整え健康を高めるための服用と活用をしたことも役だった事は確かである。

今シーズンも体調を整えスキーを楽しみ、その普及と目標を持って大会に参加するよう心がけている。

顔写真　アリ

日本スキー指導者協会
監査 三上　一（青森）

低下する指導員制度の意義

さあ、今年も１０月になり、あと２ヶ月もすれば西日本の人工降雪のスキー場もオープンの季節。今年も去年より寒いかなぁ。積雪は多くなるのかな？等、初心者からベテランまで北は北海道から南は沖縄まで老弱男女を問わず思いは同じ。日本国中を吹き荒れる不況風もなんのその確実に季節はスキーシーズンに向かっている。今シーズンも準・指導員検定は実施されるわけであるが指導員検定にあっては「制度改定」で受けやすくなり増加に転じるようになるものと思われる。

さて、表題の「低下する指導員制度の意義」についてであるが、その原因は指導員自体にもあると思う。例えば（１）技術偏重（２）独善的（３）ワンパターンな指導（４）人格に欠ける（５）指導員資格をステータスとして受検（６）資格取得してもメリットがない等の言い分まで、いろんな声が入り交じって聞こえてくる。従来から研修会では「資質の向上」というテーマで取り組まれ？てきた内容が多い。

先ず（１）の技術偏重者と（５）ステータスと考える指導者は「指導員の任務」を思い出して頂きたい。文章としての理解でなく、自分なりの普及発展に寄与する方法を考えて欲しい。

現場では、プルーク・ボーゲンの生徒や子供たちには技術偏重主義で臨んでも決して通用しないことが体験でき勉強になると思う。

（３）のワンパターンのレッスンは、経験を積み自分で考え先輩に相談すればかなりの部分解決できると思う。

最悪は（２）と（４）である。本来このような指導者は、指導員願書の出願時に各所属団体でチェックすれば改善されると思う。もう既になってしまった指導員には効果が薄いが、今よりは改善されるはず。以上は指導員自体が起因し意義を低下させている部分であり今後も続くテーマと考えている。（６）のメリット云々論は指導員制度自体とは次元が異なる問題であるが、今後も検討に値するテーマと思う。

前述だけで指導員や指導員制度の意義を低下させているとは思えないが、ＳＡＪ並びにＳＩＪに属する諸兄には一人一人が思い当たる節があるのではないだろうか。

最後に、私事で恐縮であるが、一昨年度から公認Ａ校として九重スキースクールを立ち上げた。南国大分で温泉に最も近い九重森林公園スキー場内で細々と営業している。当校では宿も驚くほど安いところを紹介できるので検討してみて欲しい

是非一度、国内で一番晴天率の高いスキー場（データ比較したわけではないが）で全国の指導員諸氏に「話の種」として来て頂きたいと思っている。連絡先は公認校の欄を参照して欲しい。

日本スキー指導者協会
幹事　西村 幸雄(大分)

私の頭の中を巡ったもの

私が、スキー指導員会に関係するようになったのは昭和４２年に北海道スキー連盟の理事を昭和４８年に全日本スキー連盟の専門委員を委嘱され連盟の仕事に関係することになったことから始まったものと思っている。

当時、北海道は広域のためスキー指導員の研修は７カ所程に分かれて行われていた。私が主任講師として参加したある研修会初日のこと、年配指導員を担当していた講師から「主任、年寄りはいわれることも満足に出来ないくせに、なんだかんだと文句ばっかり付けてくるので予定通りの研修が出来ないで困る。どうしたらいいか」とのクレームがでた。私は「君の班はスキー界に長く尽くしてくれた年配者が多いので、君のような若い者のように新しいことを直ぐには出来ないかもしれない。とにかく君の班を２人で分けよう、第一班は私が担当するから君は第二班を担当してくれ」と言うことで私が高齢者の班を受継ぎ研修会を継続した。このとき私の頭の中を巡ったのは、指導員として初心者にスキーを教えることが仕事であるのに、指導上の問題や成功例などを話し合うこともなく、全日本のスキーの上手な者の真似を、新しい技術として伝達するあり方に対して疑問を持ったことでした。北海道は昭和５１年から男６０才、女５０才以上の指導員を第一班とする高齢者特別指導員研修会を実施した。

昭和５３年の特別研修会で「シュプール」の発刊についての提案がされた。この「シュプール」は、昭和３５年に結成された北海道スキー指導員会の機関誌として発刊されていたもので、昭和４５年に会費の滞納、機関誌の原稿不足などの理由から休眠状態になっていた。それを発刊してほしいと言うことは、北海道スキー指導員会を再開して欲しいと言うことになる。私は言い出しっぺでもあり、世話役として再開の仕事を引き受けた。昭和５４年１０月に設立総会を開催し、北海道スキー指導員会の再結成が実現した。

スキー指導員の意見発表と集約の場を全国組織に

この頃、全日本スキー連盟の組織は所謂上意下達ということで、現場の意志の上申など考えられないことでありその手立てもなかった。ただ、北海道だけはスキー指導員会の再結成と「シュプール」の再発刊により意見発表や集約の場へと一歩を踏み出すことが出来た。これをなんとか全国に広め日本スキー指導員会の結成に繋ぎたいといった思いから東京に来るたびに林権一さんと話し合い、林さんの紹介で福岡孝行先生にもお会し、東京が主となって全国にスキー指導員会の結成を呼びかけて貰うことになった。また、神奈川の栁澤さん埼玉の今は故人の津守さんにもそれぞれの取りまとめをお願いした。かくして日本スキー指導員会の構想は知己の奮闘を頼りに全国へと広がっていったが、容易に理解は得られずその道のりは決して平坦なものではなかった。

結成当初の熱き想いを忘れることなく更なる発展を

昭和５８年１０月に日本スキー指導員会の創立総会が東京で開催された。この様にして誕生した日本スキー指導員会も平成１０年に名称を日本スキー指導者協会と改め、昨年の創立２０周年記念式典を区切りに新たな一歩を踏み出した。結成当初のスキーに対する熱き想いを忘れることなく、今後、ますますの発展を期待すると共にここまで育て上げてこられた方々のご努力に対し心から感謝の言葉を申し上げたい。

日本スキー指導者協会
元常任幹事
中川伊佐美(北海道)

シニア再起動

月刊スキー雑誌にエッセイを書いている。連載で通算１６５話だ。無雪地の生涯スキーヤーの思いを綴っている。意外に全国に共感者が居て、それも老若男女様々で、褒められたり注意されたり、しきりに郵便やメールがあり結構生き甲斐を感じたりしている。

今月は「起て！指導員」　エラそうにヘンに先輩ぶってるかなと思わなくもないが、目下大低迷中のスキー界、見るに堪えないのでね。

若い指導員諸君に「起て！」と言うからには、先輩のシニアの諸先生方にも申し上げるべきであろう。言葉の無礼僭越の段は、直言第一の海辺の暮らし、すっかり馴染んだふだんの言葉、この流儀で通用しているせいで、これは予めご容赦の程を。

※

ＳＡＪには強化部と教育部があって、前者は文字通りの選手強化一筋、後者は一般スキー普及のための諸行事に取り組むということになっている。この両者の関係は車の両輪、ともにスムースに機能してこそＳＡＪが安泰なのだと、長い役員生活中聞かされてきた。

少し古い話だが、札幌オリンピックの時、若年の現役役員だった私は丸っきり“猟師森を見ず”状態で雑用に忙殺される毎日。その代わり開会式には観客席のど真ん中の役員席に座らしてくれた。冬季種目の各競技役員は、式場の最前列に陣取った。それは会場を一周する巨大な制服の輪になった。スキーはその巨大な輪の４分の３を占めた。残る４分の１のなかの４分の３がスケート陣だった。そして更にその残り、つまり４分の１のそのまた４分の１がボブスレー、リュージュ、バイヤスロンなどの居場所だった。とりもなおさずこの現状が冬季オリンピック各種目の勢力配分比なのだ、と悟った。これはスキーが大責任であることを示していた。だからスキーは何が何でもオリンピックで日の丸を挙げなければならなかった。

幸いこの時はジャンプ陣の活躍、笠谷、青地、金野の金、銀、銅のトリプルの独占の快挙で日本国中が湧いた。マスメディアの視線が一斉にスキーに向いてきたのはこの頃からだ。やがて一般スキーにもその余波がきて「私をスキーに連れてって」のスキーブーム時代となり、ついには「ジャパン・アズ・ナンバーワン」とヨーロッパスキー界を感嘆させるほどの日本一般スキー界大繁栄時代の到来を迎える。

※

一般スキーとはどんな分野なのか。一般にはスキー理論の研究家を目指すわけではなく、スキーで金儲けしょうってわけでもなく、ただただ趣味の世界冬になると雪の大自然に憧れ、雪山を滑りまくることに無上の喜びを感じ、雪国に通い詰める人たちが主力なのであろう。もっと気軽に温泉場での遊びの一つとして、ゲレンデへ出てレンタル・スキーを借りるレジャー客も含まれる。これらの膨大なスキー人口がある意味でスキー界を支える経済効果も持つのだ。

一方、雪国にもスキーに没頭し「スキー命」を張る人たちが居る。なかには我流独善、手におえぬ古老も居るが、都会の一般スキーヤーから「これぞ本物」の評価で畏敬されている人も居る。

当時ＳＡＪ教育部には指導員５０人に１人という割で技術員という制度があった。この人たち”我こそは専門家の意識が濃厚、会を重ねる度に理屈っぽくなって、教育部は競技スキーの基礎部門であるなどと言い始めた。つまり、われわれは漫然と雪滑りをして遊んでるのではなく、競技スキーの基礎を研究しているのだよ、というわけだ。つまりスキーの一番難しい基礎部門の学術的分野を担当しているのだ、と譲らぬ。オレは「ゲレンデのスキーヤーのみんなが国体選手を目指して頑張ってるわけじゃあるまいし」と反論したが、競技志向の強い雪国選出技術員の多数決で「基礎スキー」に決まってしまった。どうにも馴染まぬのでオレは依然として「一般スキー」と発言したが，その度「違う！基礎スキーだ。基礎スキーで意識統一した筈だ」と叱られる羽目になった。　「意識統一」なんて軍国主義的で嫌な言葉だねえ。

昭和５５年北海道ルスツの第１７回デモ選は「第１回全日本基礎スキー選手権大会」と名乗った。その第７回の青森県の大鰐大会では今までのすべてを通算して「第２１回全日本基礎スキー選手権大会」と改称。オレは、基礎スキーなんてバカげた呼び名だなァとの思いを捨てられずに居たが、なんとこの「基礎スキー」はポールに弱い学生スキーヤーにバカ受けして、もはや完全に市民権を獲得してしまった。　「全国女子大・基礎スキー選手権大会」などは大人気で、多くのギャラリーを集めた。大会が近くなると、各地ゲレンデにはこの集団演技の練習とて、ド派手なユニフォームの女子大生チームがゲレンデ狭しとばかりに「ハーイ・ハイ」の掛け声で集団大回り演技などを練習してたのもゲレンデの風物詩の一つだった。

「昔はスキー漬けだったのよ」という奥さんたちと話していて、うっかり「一般スキー」など口走ろうものなら「ちょっとォ！それ基礎スキーのことでしょ、アタシ女子大では基礎スキーの選手だったんだからァ」などとやられる。

ちなみにその基礎スキー選手権大会は、昭和６２年の八方で「全日本技術選手権大会」と角張った名前に変わった。　「技術選手権なんてトコヤの全国大会みたいだな」とクスッと笑ったが、「基 礎」よりはマシだし選手のレベルも上がってきたことだから、格調高くていいかもな」と思い直した。

トタンにＳＡＪスキー教程が日本スキー教程と変わり、やたらに難しい用語を使う学術理論書のようになった。簡単に言えば済む話をわざわざ難しく解説している観があった。

しかし、これは雪国の実直な指導員の向学心を揺さぶったようで、大きな非難には至らなかった。ただ、ふだんは畑を耕している雪国の地元指導員が一斉に漢語を使い始めたのには参った。　「スキーの上に真っ直ぐに立って」で済むことを「直滑降に際しては、スキーの上に直立した姿勢を構築して」などと研修丸暗記の異様な漢語でスキーを教えていた。

こんな姿を見るにつけ「スキー学校はもう終わりだな」と感じたのはオレだけだろうか。

※

イライラが治まらない。昨今のスキー界の落ち目があまりに情けない。社会の不況が背景にあることなんぞ分かりきっているが、この一般スキー界特にひど過ぎはしないかい。スキーバスだって？　そんなもの有りはしないよ。いくら計画して客を募集したって、いつも定員割れで赤字続き。こりゃダメだってんで止めちまったのさ。あれほど盛んだった都会のスキークラブのスクール？　全滅状態に近いんじゃないか。

今クラブのスクール委員やったら難儀の極みだぜ。昔はガリ版のチラシ作ってスキーショップの入り口に積んどくだけで良かったんだ。締め切り日を待たず満員お断りだったよ。今はどうだい。スクール計画は日程決めるまで鳩首会議の連続。金、土、日や土、日、月など到底無理無理。結局３連休に集中するがそれもスキー３日間では疲れて勤めに影響しますからなどのヘナチョコ相手。毎日がキャンセルと申し込みの繰り返し。参加予定人員は出発日まで出たり入ったり、挙句の果てのドタキャンなど悪びれもせず。決行前日「この大赤字をどうするのよ」と定番の鳩首吐息の有様。

スキー場の民宿だって同じだよ。連日予約の電話は重なり合っての３連休。３連休だけはやっと部屋が塞がったと思えば人数は毎日増えたり減ったり。もちろんドタキャンなど屁の河童、利用は３連休なのに２日だけだね。疲れて勤めに出れば上司にニラまれる。だから３連休というのは２日間のこと。折角の土日の休みは土曜日だけのこと。日曜日の午後にはスキー場ガラガラってのは今は常識。昔は会社サボって平日スキーなんてのはいい身分の象徴だったけど、今はたちまちリストラ対象。

指導員の研修会たって同じこと。資格維持には義務づけられてるけど「研修」の名を理解してくれるのは役所関係だけ。民間企業では軽く「何じゃそりゃ」。　だから３日４日の研修なんて到底無理。出席者は役所関係ばかりだから、会議はとかく理屈先行。理屈じゃないよ技術だよ。

検定も同じかと見れば都会地は意外と現状維持。「何でも資格」ってのは昨今の風潮だし、検定をこの一番天下の一大事とて早くから身構えるからだろうな。雪国では準指志望なんて減少一方だそうだ。そんなもの取ったって、メシが食えるのかよの現実が先行するからかね。問題は全国的に１、２級が激減。これでは後が続かないよ、先行きが思いやられるねえ。

プロスキーヤーの三浦雄一郎見ろったって、あの人は何十万人に一人の努力と幸運の人。スキーのプロ名乗って冬の100日精勤したとて１日１万なら１００万、これじゃ家族養っていけない。スキーうまいからってテレビがＣＭ頼みに来たなんて話、ついぞ聞いたことも無いね。野球、サッカー、テニスなど。プロになりゃ食える見本だね。有名人になるし、何億の収入もある。これは劇場（ドーム）収入が基盤にあり、その中の人気がマスメディアに乗り、マスメディアがまた煽ってますます人気沸騰、押しも押されもせぬ天下の有名人に、という寸法だ。でもそれ世界レベルでなくっちゃね。世界で勝てるという見込みが必要なんだ。そんなプロスポーツとは違うけれど、近頃大人気なのは女子マラソン。金メダルの高橋尚子は日本国中を酔わせている有名人で高収入。頑迷な組織と争って自立の道を拓いた有森裕子は偉いと思うね。だから女子マラソンには世界に出せる後進がうようよしている。

ショボクレている先輩ばかりというスポーツに、見込みのある後進がわいわい集まってくるなんてことはないんだね。

ＳＡＪもガチガチのアマチュアリズムに呪縛された時代が長かった。オレの経験の中にも「何ッ！スキーを教えて金を取るッ。不届き者めがッ」と理事がドナって居た時代があった。いや、まだその余韻を引きずっている老名士も生きているがね。

※

ハンネス・シュナイダーの名を知らぬ人は少なかろう。個人的に巨費を工面して、世界一流の大先生シュナイダーを日本に呼んだのは私立玉川学園園長の小原国芳だ。この時ＳＡＪに国内行事の後援を申し出たが、あれはプロだからと冷たくそっぽを向かれた。

しかしシュナイダーは日本の一般社会から歓呼の声で迎えられ、スキー界に大影響を残し、近代日本一般スキーの祖になった。そっぽを向いた当時の連盟の当事者は、なんと恥ずかしいことだろう。

一般スキーの栄枯盛衰は日本という国の社会生活と絡らんで大きな意義を持っている。「スキーは雪国の歴史や生活様式を塗り変えた」という表現は決して間違ってはいない。

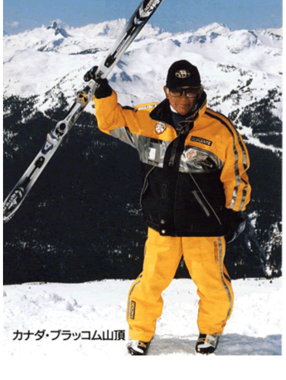
明治４４年レルヒ少佐の来日と、迎えた高田１３師団長長岡外史将軍のあのすばらしい対応によって日本のスキーは発祥した。乃木希典将軍は「スキーは実用になり、スケートよりもはるかに効用の広い、すばらしい雪国スポーツである」と讃えた。

※

誇りある、冬のスポーツの王様。いつまでも縮んでいていいものか。今だからこそいいことがたくさんある。安い。交通が楽だ、リフトに並ばず乗れる、ゲレンデではわがもの顔だ。さあスキーに仲間を誘おう。

スキーはレベルが上がれば上がっただけ楽しみの大きさが増すことを知らせよう。

自分の後進を育てよう。クラブの集まりを盛んにしよう。昔の指導員たちは、そうやって仲間を増やした。いい時代の到来が、なんとなく近づいている。スキー界もそんな気配がある。さあ、今シーズンは張り切ろう。再起動のキィを押そう



エッセイスト
日本スキー指導者協会
顧 問 金井　英一郎

(財)全日本スキー連盟教育本部報告

スキーは白銀におおわれた自然の中で楽しむスポーツです。一人でもグループでも、また初心者・上級者を問わず、それぞれのレベルにあった満足感が得られ、子供から大人まで年齢にかかわらず魅了される素晴らしいスポーツです。使い古された言葉ではありますが「スキーはスポーツの王者」であることは、２１世紀を迎えた現在も尚変わっておりません。しかし、現代のライフスタイルの変化によって、かつては技術の向上に重点が置かれていた楽しみ方が、現在では心の豊かさを求め自分にあったスキーを楽しむように変化してきております。

また、スキーに対して求めるものも、人との出会い、仲間作り、生涯学習、生きがい等、実に多様になってきています。その為、スキーの指導者には技術指導のノウハウ以外にも指導者としての資質や人間性を含めた、トータルな指導力が求められているのです。

そこで、このような社会変化に対応し、また今後の指導者制度のありかたを見直す中で本連盟は教材である「日本スキー教程」の組み直しと検定制度の大幅な変更を行いました。

さて、世界のスキー指導者が集まり、各国のスノースポーツの現在を発表する第１７回インタースキー大会（スイス・クランモンタナ開催）のテーマは「スノースポーツの未来」でした。このタイトルは今後の活動の方向性を示すものとして受け止める必要があり、従来の「スキースポーツ」という捕らえ方から「スノースポーツ」という枠を広げた、スノースポーツ全般の活性化を目指す活動が必要になってきています。

また、日本のスキー界においてもインタースキー大会における潮流は、情報収集の場から情報交換の場へと推移し、現在では情報の発信へと変化してまいりました。それはまさに現在のインタースキームーブメントの方向性が単なる技術発表や比較の場ではなく、国単位の垣根を越えて実際に指導の現場に立つ指導者たちの「共同の場作り」となりつつあるからです。そして、日本のデレゲーションは場・物・人の変化という観点から、求められる指導者像と指導活動のあり方についての提案を行い、その発表内容を基盤にして教程の改訂を行いました。

本教程では環境変化の観点の中に「情報化への対応」を加えて「発信」出来る指導者としての意識改革と、実地の指導の形態や内容の研究を期しています。具体的には指導者の役割として単なる技術の伝達者ではなく、指導の本質である楽しさ、面白さ、喜び、価値といった究極の目的を意識して、指導活動の全体を構成し演技できる能力を求めています。

最後に、新日本スキー教程をご覧になって理解をしていただき、是非活用していただきますことを願っております。

また検定に関しましては2004年度教育本部「オフィシャルブック・スキー検定受検者のために」をご覧になっていただきたいと思います。

（追記）

全日本スキー連盟では日本鋼索交通脇会・SIA・全国スキー安全対策協議会・輸入協等の団体とスノースポーツ活性化の為、またスキー産業界の活性化の為、①スキーの日の制定②スキーコースの難易度を示す色・形標識の統一化等の広報活動も行っております。

(財) 全日本スキー連盟
教育本部長　五十嶋　博文

Ｓ．Ａ．Ｊ． 2003-2004 教育本部 スケジュール

中央研修会	1) 北関・南関・甲信越:鹿沢スノーエリア 2) 東海北陸・西日本 :鹿沢スノーエリア 3) 東北 :山形県・蔵王 4) 北海道 :北海道・札幌国際	03.11.22(土) 〜 24(月) 03.11.29(土) 〜 12.01(月) 03.12.05(金) 〜 07(日) 03.11.29(土) 〜 12.01(月)
スキー大学	第１会場 :五竜遠見 第２会場 :北海道・ 朝里川	04.01.09(金) 〜 11(日) 04.01.16(金) 〜 18(日)
学校スキー指導者	講習会 :飛騨高山	04.02.08(日) 〜 11(水)
指導者検定会 Ａ級公認検定員検定会	1) 朝里 3) 尾瀬岩鞍 5) 大山 2) 大鰐 4) 流葉	04.02.27(金) 〜 29(日) 04.02.27(金) 〜 28(土)
第 41 回全日本スキー 技術選手権大会	:八方尾根	04.03.10(水) 〜 15(月)

北から南まで
スキーの日（1月12日）に因んだ全国スキー場催事

１月１２日を中心に全国各地のスキー場で様々な催しが展開されます。

【 主な催し 】

大抽選会：景品は海外旅行、ホテル宿泊券、その他

リフト割引、餅つき大会、スタンプラリー、宝探し、

スキー試乗会、スクール無料体験

詳細は、ＳＡＪホームページか最寄りのスキー場にお問い合せ下さい。

http://sportsnavi.yahoo.co.jp/official/saj/index.html

【北海道】Part1　感性を鋭く・豊かに持とう・・・

理事長　福地　白

平成16年度北海道スキー指導者連盟　代議員会を開催する

２００３年９月２８（日）定例の代議員会が開催された。北海道のスキー指導者の団体がそのスキーにかける意思の表現の場として年１回の貴重な機会である。
過去、北海道スキー指導者集団は優れたリーダーのもとに充実した歴史を持っており、今、第６代目　坂井敏夫会長を得て新たな発展を遂げようとしている。

役員改選　副理事長体制・若手登用

平成１６年度は、役員の改選期にあたり全道のスキー有識者の頭脳集団として役員の増員強化を行う一方、加盟団体からは熱意のある理事者の推薦をいただいた。規約における役員条項を改正し、副理事長の２名体制をとり若手の登用を含め時代の流れを敏感に感知し実行に移すための態勢強化も図られました。　北海道スキー指導者連盟は坂井敏夫会長をトップに、史上最強の役員・スタッフを得て力強く歩んでおります。

ウオーターボーイズに学ぶ

代議員会を前に札幌を中心としたリーダーが坂井会長宅に集まり、「トップミーティング」を開催しました。そこで出た話題のひとつに「ウオーターボーイズ」が有ります。オリンピックでワールドカップでメダルを有する、あのシンクロナイズスイミングの美女軍団とはまったく異質の男子高校生版のプールでの演技である。今までプールに足を運んだことの無い人達までもがプールサイドに駆けつけ、異常なほどに声援、盛り上がりを見せます。そこには、若さ、青春、友情、チームプレイ、家族愛など様々な思いが込められているのが見られます。スキーの世界の活性化のヒントがこんなところに潜んでいるのかも知れません。常識にとらわれないスキーの楽しさ、滑るスキーヤーと見る人が共に楽しめる企画が、そしてまた自然（Ｎａｔｕｒｅ）への関与は更に強まり求められているように思います。

スキーヤーの触れあいを大切に

北海道で開催されるＳＩＪカップフェスティバルは間違いなくスキー界の活性化につながっております。
２００３年第４回ニセコ大会は濃霧でＧＳレースが中止になりました。しかし、関係役員ならびに協力会社の数々の支援もあり記念すべき盛り上がりを見せました。
ここにもヒントが含まれているように思われます。
タイムが早かった選手は表彰されます。残念ながら遅かった選手は閉会式を待たずに引き上げてしまいます。閉会式ではじめて勝者がわかる採点法、例えば「正時に限りなく近い選手から順位をつける」などを併設しておけば、いずれの参加者も優勝者になる機会を得て最後まで会場に残ることとなります。
タイム中心ではないスキーヤーとスキーヤーの触れ合いの場としての意義ももっと大切にしたいと考えます。

名誉ある「Schi　Meiーser」（仮の名）

北海道の著名なスキー場を良印スキー場として１０箇所選定いたします。滑走をした証明が１０箇所集まったときそのスキーヤーは、名誉ある「Ｓｃｈｉ　Ｍｅｉ－ｓｅｒ」（仮の名）が認められるとしたなら、社会的認知を含めその取り扱いによっては、活性化につながる案となりそうです。スキー場の良印マークの選定のために、スキー場自身もあらゆるサービスレベルを切磋琢磨されていきます。保有されるスキー指導力も評価の対象になります。そこではスキー場の総合力が試されることになり活性化につながります。（もちろん、全国バージョンに拡大的採用が可能となります）

埋もれている宝石を探る

スキー場に足を運ぶスキーヤーの要求も多様化しております。スキー技術を身に付けたい人、冬の自然に身をゆだね眺望を含め自然を観察したい人、地域ガイドを期待する人、希望のグループがまとまったら専門の知識・技能を有するスキー指導者がグループの要求に応じてスキー場に駆けつける態勢が整っているというスキー場が現れるかも知れません。ただ滑るスキーの快感から、ひとつ抜け出した知的なスキーの世界に脱皮をはかることも考えられる。一時はやったことのある集団思考法のひとつ「ブレーンストーミング」Ｂｒａｉｎｓｔｏｒｍｉｎｇを全国的に取り上げスキー界活性化のアイディアや思い付きを自由に出し合い、埋もれている宝石のような方策を探る時期と思われます。

感性を鋭く・豊かに…

パウダー８のシュプールを見て、ある人は娘が幼い頃編み上げた髪の後姿を思います。食欲の旺盛な人は砂糖をまぶした「ねじりドーナツ」を思い浮かべるかも知れません。ちょっと高尚に仏教で言う限りなく続く「輪廻の世界」を思い浮べるスキーヤーもいるかもしれません。感性を鋭く・豊かに持つ時スキースポーツの持つ世界は更に広がりを見せるものと思います。

こんな思いも込めながら検討された平成16年度運営方針および事業計画です、識者のご意見をお待ちいたします。

会報「シュプール」を手にスキー指導者の
心意気と風格を述べる坂井会長

【北海道】Part2 北海道スキー指導者連盟

理事長　福地　白

平成16年度　運　営　方　針

○時代の流れに沿った事業を企画し、全道８０００名余７３加盟団体を統括する組織として活動すると共に、財政基盤の確立を図りそのスタート年として位置付ける。

○スキー活動の原点に返り世代を超えて求められている新規事業を模索し、組織の足元を更に強固なものにする、と共に冬季スポーツの持っている人の心と身体に与える豊かな恩恵を軸にスキー界の活性化を進める。

○地域住民の健康増進のため積極的に関与・活動を進める。

１．三役会議、理事会、専門部会の他、必要に応じプロジェクトチーム等により運営方針に沿った活　動を実施する。

２．北海道スキー連盟教育本部との連携を密にし、教育本部の成しえない分野でスキー指導者活動の補完をする。

３．日本スキー指導者協会との連携を密にし、全国的なスキー界の活性化に向けて共同歩調をとり、諸行事について積極的に参加・協力をする。

４．スキースポーツの社会的認知を高めるため、一般スキーヤーのスキーに対する興味・嗜好を柔軟に汲み取り、健全なスキー界の発展を図る。

平成16年度　事　業　計　画

１．会報「シュプール」32 号の編集と発行。

２．第 18 回北海道スキー指導者連盟の集いの開催と共に指導者制度設立 65 周年式典を開催し傘下会員の功労者を表彰する。

３．雪上の研修会開催を検討する。
（従来のオーストリー特別研修会に替るものとして位置付け検討をすすめる。）

４．北海道スキー指導者連盟加盟団体と当連盟執行部との対話の場をセットし、コミニュケーションの実をあげる。

５．北海道スキー連盟教育本部の行事に協力し、協賛金を負担する。

６．準指導員合格者および関係団体に会報「シュプール」を贈る。

７．日本スキー指導者協会の諸行事に協力態勢をとり、参加者に助成をする。

８．情報化、ＩＴ社会に対応するため「ホームページ」の立ち上げを検討する。

９．加盟団体行事に「トロフイー」を贈る。

10．会員の逝去に「弔慰金７千円」を贈る。

11．そ　の　他

【岩手県】岩手県スキー指導員会

会　長　吉田　勇夫

03～04シーズン
当指導員会事業計画と県内見所・食べ処など

今年の夏は冷夏、当県の場合は第一次産業の農林業に元気がなければ県内の景気が上向かない状態ですが、その収穫期を迎えいささか元気がないこの頃です。岩手山にも初冠雪が見られ、来るシーズンが待ち遠しいのは皆さんと同様です。

事業計画

1）岩手県スキー指導員会代議員会	(H15.10.11)
2）指導員会会報発行	(H15.11 末)
3）岩手県スキーメモ購入	(H15.12 上旬)
4）指導員育成事業	(H16.2)
5）準指導員合格者記念品提供	(H16.3)
6）全日本スキー技術選補助	(H16.3)
7）指導員研修	(H16.4)
8）親睦交流会	(H16.6.9)

☆　県内見所・食べ処

県内には多くの見物場所がありますが、今回は北から南まで約 200 キロの海岸線を紹介致します。

青森県境の種市町南部、潜りの故郷でもあり、県立高校の水中土木科は全国に知られております。

特産の天然ホヤ、アワビ、ウニは人工海床を作って素潜りで獲っております。隣の**久慈市**に入ると隆起海岸となり、断崖絶壁のすばらしい海岸美が楽しめます。石油備蓄基地の中にある水族館も楽しみの一つです。軍配餅は素朴な田舎のあじです。

野田村には国内一の産出量を誇る琥珀の鉱山があり、海産物は美味しい物がたくさんあります。**譜代村、田野畑村**は断崖絶壁の海岸で北山崎、鵜の巣断崖など、漁港では太田名部があり、秋鮭を初め多くの水揚げがある所です。

岩泉町は龍泉洞が有名ですがこの 3 町村はマツタケの産地でもあり、岩泉町には松茸の研究所もあります。

田老町には真崎、山王岩の景勝地があり、ウニをはじめ海草類が産地です。**宮古市**に入るとリアス海岸となり浄土が浜は特に有名です。これから南の山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市は養殖漁業が盛んで、**山田湾**にあるオランダ島はＮＨＫの「ひょっこりひょうたん島」のモデルになった島です。**大槌**には片瀬波の浪板海岸、秋鮭が遡上する大槌川、小槌川、**釜石市**はラグビーがあまりにも有名です。**大船渡**の五葉山は三陸海岸最高峰です。

高田松原は約 2 キロに亘って黒松林になっており海水浴で賑わいます。両市とも養殖のホタテ、ホヤ、ワカメ、昆布、等で有名。また宮古、釜石、大船渡はサンマの水揚げでも全国有数の港でサンマ宅配便が有名です。南北三陸鉄道とＪＲを乗り継いでの見所となりますが、レンタカーなどで回られると時間がかからなくて便利です。食べ物では魚介類がこれから寒さに向かいますますおいしくなる季節です。時間を作り是非出かけて見て下さい。簡単ですが 200 キロを足早に駆け抜けました。

【宮城県】宮城県スキー指導員会報告

会　長　半沢　進

１．はじめに

本会報により、宮城県スキー指導員会の活動についてこの紙面をお借りして紹介させていただきます。

２．2003 年を振り返って

本県での活動内容は、年間を通じての事業と各種支援等に大きく分けることができます。昨年度の事業のなかで特筆すべきは、サン・アントン（オーストリア）への海外スキー研修でした。本行事には１６名の会員の方々に参加して頂き、本場オーストリアのスキー場を堪能し親睦を深めるとともに、最先端のスキー技術理論にふれ、皆大いに満足してきました。

また後述しますが各種講習会や研修会等への支援も充実させたのが、昨年度の特徴です。

３．2004 年度シーズンの事業活動について

今シーズンも昨年度導入の企画を盛り込み下記のように計画しました。

○　主な事業計画

No.	年月日	事　業　名	場　所
1	H 15.10.25 (土)	総　会	仙台ガーデンパレス
2	H 15.10.25 (土)	交流会	仙台ガーデンパレス
3	H 15.12　中旬	講演会	
4	H 16.02　中旬	海外スキー研修	未　定
5	H 16..03.07	準指導員合格者入会受付け	ホテルオニコウベ
6	H 16.06　下旬	役員会	未　定
7	H 16..08　上旬	日本スキー指導者協会総会	東　京 ２名　参加
8	H 16.09　中旬	役員会	

【埼玉県】埼玉県スキー指導員会

会　長　小笠原　健一

秋の紅葉が南下し、雪の便りが聞こえる頃となり、待ちに待ったスキー・シーズンの到来である。

埼玉県は役員改選の年に当たり、２００３年度の教育本部臨時評議員会において新役員が承認された。９月２８日の教育本部定期評議員会において新年度行事、予算も承認され、厳しい社会経済不況の中、新年度のスタートをしたところである。

新年度も教育本部の事業は４４事業を予定し、精力的に事業推進するべく努力をすることとしているが、事業の成功を見るためには、この不況の中、各事業における参加者の獲得が不可欠である。そうした中

今年度から障害者へのスキー普及についても検討に入ったところである、。

その中にあって、埼玉県スキー指導員会は２００４年度、５行事を担当している。ご多分に漏れず、昨今の社会経済不況の荒波は、各事業に押し寄せ厳しい運営となっている。

２００４年度埼玉県スキー指導員会担当の事業は以下の通りである。

◎第１５回ジュニアスキー教室

１２月末に群馬県鹿沢スノーエリアで開催される。スキーヤーの卵の育成である。リピーターの多いのは嬉しい。

◎教育本部スキー競技会および新人歓迎会

指導員研修会の一環として実施され、準指導員合格者は参加義務となっている。なれないポールにチャレンジするのも楽しい。

◎あるくスキー

雪上のスポーツも多様化している昨今、今までと違ったスキーを体験することにより、スキー指導者としてスポーツ指導者としての資質の向上の観点から実施するものである。

◎教育本部長杯懇親ゴルフコンペ

教育部員を対象に、埼玉県内のゴルフ場で実施している。

•2004年度指導員会定期評議員会	９月２８日
•第15回ジュニアスキー教室	１２月２６日～２８日
•教育本部スキー競技会•新人歓迎会	３月　６日
•あるくスキー	４月　３日 ～ ４日
•教育本部長杯懇親ゴルフコンペ	８月　６日

以上が埼玉県スキー指導員会担当の事業である。今後ともご支援、ご協力を頂きたい。

【茨城県】茨城県スキー連盟指導員会の近況

事務局　鈴木　瑞生

連盟50周年によせて

茨城県スキー連盟指導員会は創設以来、技術向上と会員相互の親睦を図ることを目的として雪上研修や懇親会などを計画し、雪無し県茨城が他県に遅れをとらないようにと茨城県スキー連盟の中核として活躍してきた。発足当時から事務局を担当していた私は、デモ選に出場する選手への資金援助、技術向上のためにと有名選手を招いての講習会開催、雪有り県の指導者に対して様々の指導依頼と、雪無し県のハンディを払拭しようとする会員の熱意におされいろいろ企画を打ち立てる事が出来たまたそれが出来る団体であった。そうした意味で指導員会の存在は大きいものであったと思う。

しかし、**会員の増加に伴い**一局運営が難しくなり、会員が４００名に達したとき、連盟からの提言もあって、**県内を五つの支部に分け**てより効率化を目指しそれぞれが**独自の活動を展開**することになった。

各支部ではそれぞれ工夫を凝らし技術向上を目指し見識者を招いての講演会や先達を招いての雪上研修会また、会員親睦会等の行事を計画してきた。そして今や県内合計で、指導員、準指導員併せて約１，０００名の有資格者を抱える大所帯になってきた。

しかし近年に至って、この大所帯が招いたコミュニケーション不足によるものであるかどうか定かではないが、各支部での活動が思わしくなく会員相互の連携も図りづらくなったため、指導員会事務局と連盟執行部との数回の話し合いにより、**昨年より指導員会をスキー連盟の組織の中に吸収**せざるを得ない状態となった。そしてこれ以後、指導員会単独での行事を持つことは無くなったのである。

さて、**茨城県スキー連盟は今年創立５０周年を迎えた**。去る９月２７日に水戸市にある水戸京成ホテルで関係各位を招き多数の列席者のもと盛大に記念行事が催され併せて記念誌の発行も刊行された。全日本スキー連盟関係では会長堤義明氏からは祝辞と祝電が寄せられ、副会長の青木巖氏からは祝辞を頂戴した。また茨城県知事や茨城県体育協会会長からもそれぞれ祝辞が寄せられた。

現会長の古賀澄夫氏の挨拶の中に「**雪無し県茨城の現在に至る道のりは決して平坦では無かった。しかしそれを支えた先輩達の苦労に我々が応えていかなければならない**」とあったが、その会場に集う会員達のまさに本音であったと思われる。祝辞の後、感謝状の贈呈、功労者の表彰があり**５０年の歴史にふさわしい式典となった。**

今スキー界を取り巻く社会環境に目を向けてみると、非常に厳しいものとなっている事は周知の事である。そうした社会の中でスキースポーツの発展に如何に寄与していくかは、スキーをこよなく愛した我々の責務である。安全にそして速く、スキーの楽しさをまだ味わったことのない人々に伝えていくことこそ、肝要なのである。その為にも我々は技術を錬磨し、指導力を培い人々に愛されたいと願うのである。

茨城県スキー連盟は今５０年を迎えた。人生で言えば壮年と言える。信頼され、活躍を期待される時期なのである。**我々指導員会は連盟の中にあってその柱となることを期待してやまない。**

茨城県スキー連盟　創立５０周年記念式典

【奈良県】奈良県スキー指導員会

会　長　平岡　弘一

2004年度事業計画

奈良県スキー指導員会は、指導員９９名、準指導員１５８名、スノーボード指導員２名、同準指導員５名及びC級スポーツ指導員２１名、総員２８０名（ボードとの重複あり）の会員からなります。

例年１０月に総会を開き、事業計画と予算の審議を行ない、６月には新会員の紹介を兼ねた臨時総会を開いております。また会員相互の親睦を深めるため、各総会毎に親睦会を行なっております。

当会では、会員に納めてもらっている会費を有効に活用しようと、会員の技術向上やスキー界の新しい動きを知ってもらうための事業を行なっております。

総会では講師を招き講演会を行なっております。ジャーナルやスキー雑誌で、新しい技術や技術選の上位入賞者の滑りも紹介されていますが、なかなかピントこないので、生の声を聞こうということにしました。更にこの一環として、昨年から八方尾根で「白銀の白馬を楽しむ会」を開催しております。指導員会が講師料の一部を負担し、技術選の上位入賞をしている若手の丸山貴雄氏を講師に招き、白馬を楽しみながら足前も磨いております。講師の滑りに感心しながら、今までとは違った表現の仕方に「これは使える」とか「目から鱗が落ちた」との声もあり。「滑りが一段ステップアップした」等々収穫の多い「楽しむ会」でした。今年も「楽しむ会」を行ない、マンネリ化しそうな会員に、新しい刺激を感じてもらって、またスキーが楽しく続けられるように願っています。

また指導員・準指導員検定受検者単位取得講習会に援助を行ない、養成講習会が円滑に行えるよう協力しています。

【千葉県】千葉県スキー指導員会

副会長　長澤　光雄

平成16年度行事

○平成15年度総会開催
会　期：平成 15 年 11 月 16 日（日）
会　場：フローラ西船
内　容：平成１５年度事業報告及び決算報告並びに　平成１６年度事業計画（案）及び予算（案）。今回は指導員会創立３０周年記念フェステバル、千葉県スキーリーダー生涯スキーリーダー認定講習会その後、ＳＡＪ教程改訂について講演会。
「検定制度の改定点について」
講師：ＳＡＪ検定小委員会　猪俣和久氏
総会終了後に会員相互の懇親会

○指導員講師派遣
平成１６年１月、２月に八王子市中学校（24 校）のホワイトスクールに講師派遣。
長野県ブランシュたかやまスキー学校。

○指導員研修会（熟年指導員特別研修会）
検定員クリニック運営
会　期：平成 16 年 1 月 16 日（金）～ 17 日(土)
会　場：蔵王スキー場
講　師：ＳＡＪ専門員、ブロック技術員
定　員：40 名
参加資格：原則として男性 50 歳、女性 40 歳以上

○準指導員検定会への役員派遣
会　期：平成 16 年 2 月 13 日（金）～ 15 日(日)
会　場：会津高原高畑スキー場
指導者としての責務と資質の向上を目指すよう指導。
指導員会への入会手続き、ネームプレート、　ＳＩＪキャップ、ワッペン販売、会報わかしお、指導者協会会報の配布、その他

○千葉県スキーリーダー生涯リーダー認定講習会
会　期：平成 16 年 3 月 12 日（金）～ 14 日（日）
会　場：長野県小海リエックススキーバレー
受講対象：生涯スキー指導者を志す年齢 40 歳以上で概ね 2 級以上のスキーヤー
講　師：ＳＡＪ専門委員、ＳＡＪブロック技術員、学識経験者
講習内容：スキーの楽しさを伝え安全に指導出来るリーダーの養成。スキー技術の方法論、スキー実技、安全対策や自然についてリーダーに必要な知識と技能の習得。
（基礎理論：4 時間、実技講習：4 時間）

○指導員会創立30周年記念フェステバル
当会は創立３０周年を迎えました。指導員相互の親睦とスキー界のさらなる活性化に向けてこの　事業を行ないます。
期　日：平成 16 年 3 月 20 日（土）～ 21 日(日)
会　場：高杖スキー場
競技種目：大回転競技

○第3回千葉県スキー人親睦ゴルフ大会
主　催：千葉県スキー指導員会
後　援：千葉県スキー連盟
期　日：平成 16 年 4 月 18 日（日）
会　場：長南パブリックコース

【東京都】東京都スキー指導員会

幹事長　山崎　一正

平成１６年度行事計画について

第３７回総会は６月２７日開催されました。
役員改選により役員が６名交替し新執行部がスタートしました。
平成１６年度の運営行事は別掲の通りでありますが資格者としては、ＳＡＴの雪上行事や所属クラブの行事にも積極的に参加する任務を負っており、本会の雪上行事への参加は限られた範囲とならざるを得ないのが現状であります。
その中で本会としては、ＳＡＴの手が回らないところを考慮しながら、スキー普及につながる何らかの行事を今年度も運営して参ります。
総会当日、前年度に合格した指導員・準指導員の歓迎会を開催しましたが例年になく多数の参加を得ました。多くの新しい仲間を迎え、運営にも一層の拍車がかかるのではと意を強くした次第です。今後ともＳＩＪ組織を通して他府県との交流・情報交換を図りスキー界振興のため努力して参ります。

ＳＩＴ（東京都スキー指導員会）平成16年度行事
例年開催している指導員受験者を対象とした雪上での、特別研究会はＳＡＪ第三検定会場（尾瀬岩鞍）で開催します。また、昨年に引き続き好評のフェスティバルをオーストリア・トップデモンストレーター：リッチベルガー氏を迎え、初日は技術講習会、２日目は年齢別技術選
手権を開催します。両行事ともに近隣各位のご参加を歓迎いたします。
詳細は本会ホームページまた、担当部幹事にお問い合せ下さい。

平成16年度　行事一覧

	年月日	行事名
1	H15.10 下旬	会報６６号発行
2	H15.10 下旬	ホームページ充実
3	H15.10.24(金)	スキー講座 場　所:薬業健保会館 講師他:増田　千春氏
4	H16.01.17(土) ～ 18(日)	テクニカルプライズ 講習検定会　＊ 場　所:菅平スキー場 講師他:ＳＡＪ公認指導員
5	H16.01.31(土) ～ 02.01(日)	指導員受験のための 特別研究会 場　所:尾瀬岩鞍ｽｷｰﾘｿﾞｰﾄ 講師他:ＳＡＪﾌﾞﾛｯｸ検定員
6	H16.03.13(土) ～ 14(日)	第 23 回フェスティバル （技術講習会＆テクニックキャンプ） 場　所:白馬五竜スキー場 講師他:リッチベルガー氏 (ｵｰｽﾄﾘｱﾃﾞﾓ) SAJ ﾌﾞﾛｯｸ技術員
7	H16.06 中旬	準指導員合格者歓迎会

＊テクニカルプライズ講習検定会は（財）東京都スキー連盟より委託を受けて協力団体として実施します。

【神奈川県】神奈川県スキー指導員会

幹事長　藤木　昇

新しい風を読む　会長　水島秀夫

新生神奈川県スキー指導員会は、創立から今年で２０周年を迎えました。初代会長の松浦益司郎先生から数え、この度６代目の会長に選出されました。歴代の会長の偉大な足跡を汚す事の無いよう初心に返って、会員の皆様方のためになる執行に向けて幹事一同と誠心誠意取り組んでいく覚悟です。

時代の変遷とスキーヤーを取り巻く環境の変化などを考慮して、神奈川県スキー指導員会の目指すグランドデザインを、早急に描きたいと思っております。時代の「風」を素早く読んで（財）神奈川県スキー連盟、各協会などの関連団体との協調、融和を図りるとともに、日本スキー指導者協会を中心に各指導員会が手を携えてスノースポーツ活性化のために活動の輪を拡げていければと願っております。

２０周年を一つの区切りとして、微力ながら努力をしてまいりますので、皆様方の一層のご支援を切にお願い致します。

指導員会新役員決まる

名誉会長：大澤　佑吉（川崎）
会　　長：水島　秀夫（横浜）
副 会 長：古藤公昭（津）草彅純也（須）大山重彦（横）
幹 事 長：藤木　昇　（横浜）
副幹事長：平賀淳夫（川）島村一男（小）岡本秀明（相）

総務部４名、財務部２名、事業部３名、会員サービス部　３名、広報部２名、監査役２名、顧問１３名、参与２名　を含み総勢４０名の役員で臨みます。

皆様どうぞよろしくお願いします。

◎総会・特別講演会・懇親会

平成 15 年 8 月 30 日・玉川クラブにて
特別講演会は、講師として前全日本スキー連盟デモンストレータ本間尚氏を招聘し「検定の改正」と題して行われた。講演は大変有意義な内容であり、

平成１６年度事業案内

①スキーの性能を生かすためのコンディショニングトレーニング講習会
H15　9/15,　10/4,　10/18　11/15　全４回
横浜市　鳥浜振興会館体育館　参加費:4,000 円(4 回)
講師:元全日本ナショナルチームコーチ　塚脇　誠氏

②第６７回親睦ゴルフコンペ（秋季大会）
H15.10.23（木）　箱根湯の花ゴルフ場

③第２回ランクアップスキー教室
（雪上トレーニング講習会）
H15.12.13（土）～ 14（日）奥志賀高原スキー場

④第１７回特別研究会
H16.1..23（金）～ 25（日）　車山高原スキー場

⑤２月草津特別企画（熟年者よ集いましょう！）
H16.2.1（日）～ 3or4（水）
群馬県・草津国際スキー場

⑥第４回車山チャレンジカップ
H16.2.14（土）　車山高原スキー場

⑦第２３回オール神奈川スキーヤーズ大会兼第２回神奈川県マスターズ選手権大会２連戦（第２戦）
H16.2.28（土）～ 29（日）新潟県八海山麓スキー場
※午前中ポール講習会あり

⑧エンジョイスキー in 小海
H16.3.3（水）～ 5（金）小海リエックス・スキーバレー

⑨第２０回指導員会フェスティバル
H16.4.3（土）～ 4（日）車山高原スキー場

⑩第６８回親睦ゴルフコンペ春期大会

以上の行事に皆様のご参加をお待ちしております
詳細は指導員会ホームページをご覧下さい。
URL http://www.sik/arts-k.com/

(財)全日本スキー連盟日本スキー指導者協会

平成１５年度 第2回常任幹事会　議事録

日 時　平成15年5月24日（土）11:30～14:00
場 所　チサンホテル浜松町港区芝浦1-3-10
出席者　（順不同敬称略）
　菅 秀文（名誉会長）金井英一郎（顧問）
　片岡　春夫（顧問）
　田 英夫 近藤 晃 阿部 雄三 大澤 佑吉
　福地 白 長澤 光雄 浦辻 直 水島 秀夫
　藤木 昇 矢船 保夫 渡辺 忍 荒井 哲夫
委　任
　速水 潔 綱川 千夫 宮沢 一英 中川 利夫
　杉崎壽三男 広岡 和夫 榎本 建司 田子巌
　松本 一克 松谷 富彦
事務局
　高橋イキエ 島村一男 水島三千夫 岸田典子

１．開会の辞　阿部副会長
２．会長挨拶　田会長
　今年は、ニセコのフェスティバルに参加しようと思っていましたが、国政に戻ったため参加する事ができませんでした。大変残念に思っております。本年度も皆様のお陰で事業を無事終えることができました、ごくろうさま。そして、ありがとうございました。
３．議長選出　議長に水島秀夫幹事長を選出
４．書記指名　議長より書記に水島、岸田両事務局員を指名
５．議事録署名人選出
　議事録署名人に矢船保夫、藤木昇常任幹事を選出
６．議事運営の確認
　水島秀夫議長より１４時を目処にする旨確認
７．平成１５年度概況報告
　別紙資料により報告説明：水島幹事長
　１）一般報告
　（１)会議関係：事務局日誌により報告
　　別紙添付資料 阿部中央事務局長
　（２)事業別報告：別紙添付資料に基づき説明
　　大澤事業実行委員長
　　①第８回 SIJ 親睦ゴルフ大会
　　②第１回ﾗﾝｸｱｯﾌﾟｽｷｰ教室
　　③第２回みんなで行こうスキー大学
　　④第 17 回インタースキー総会（ｽｲｽﾓﾝﾀﾅ）視察ツアー
　　⑤第４回 SIJ カップフェスティバルニセコ東山
　２）ＳＡＪ報告
　　杉崎壽三男特別幹事(SAJ 理事)欠席:省略
　３）会議、事業、本部会計収支報告
　（１）事業収支報告:大澤事業実行委員長
　　別紙添付資料により報告説明
　（２）会議報告:阿部中央事務局長
　　別紙添付資料（事務局日誌）により報告説明
　（３）平成１５年度収支決算報告
　　阿部中央事務局長
　　２０周年記念誌の費用補填は特別会費にて対応した。別紙添付資料により報告説明以上について全員了承のもと承認
８．提案事項
１）平成１６年度事業計画（案）について:
　大澤事業実行委員長
　別紙添付資料にて説明提案
２）平成１９年度本会計予算（案）について
　阿部中央事務局長
　別紙添付資料にて説明提案
３）総会について　:　阿部中央事務局長
　平成１６年度総会の開催について説明提案
　日　時　平成１５年８月２日（土）
　場　所　チサンホテル浜松町
　　東京都港区芝浦　ＪＲ浜松町駅下車
　常任幹事会１１：００～１３：００
　　（昼食時間含む）
　総　　会　１３：３０～１５：００
　懇 親 会　１５：３０～１７：００
４）その他　：阿部中央事務局長
　会費の納入状況について討議し次の通り確認した
　①未納金の回収を優先する
　②年会費は値上げしない
　③未納分について一括納付が無理な場合は分割など調整はするが免除はしない。以上について一同承認
　以上の議事録を証するため下記に署名する
　平成１５年５月 24 日
　議　長　　　　水島　秀夫 印
　議事録署名人　矢船　保夫 印
　議事録署名人　藤木　 昇 印

(財)全日本スキー連盟日本スキー指導者協会

平成１６年度 第1回常任幹事会　議事録

日　時　平成15年8月2日(日)１１:００～１２:５０
場　所　チサンホテル浜松町 港区芝浦１-３-１０
出席者
名誉役員　菅 秀文
現役員　田　英夫 近藤 晃 阿部雄三 大澤佑吉
　宮沢一英 杉崎壽三男 福地 白 長澤光雄
　浦辻　直 水島秀夫　藤木 昇 松本一克
　渡辺　忍 荒井哲夫
委　任　綱川千夫 中川利夫 吉田晃一郎 広岡和夫
　榎本建司 田子　巌 矢船保夫　松谷富彦
事務局　高橋正視 高橋イキエ 塚本哲夫
　島村一男 水島三千夫　岸田典子

１．開会の辞　阿部副会長
２．会長挨拶
　北海道の速水潔副会長のご逝去という悲しいお知らせがありました。うれしいニュースは、三浦雄一郎氏のエベレスト登頂世界最高齢。また、父の敬三氏（９９歳）がモンブラン滑走などシニア層の活躍がありました。この快挙につきましては、国として表彰との動きもあります。
　ある地球物理学者が“一万年後の人類は自然を最良とするようになり戦争や利便さの追求はなくなるだろう”と説いている書を目にした、便利、環境破壊、温暖化の中でスキーはどうなるのだろうか？このような夢のような話は別として、近年の水泳界では若者が大活躍をしている、それに反してスキー界は会員が減退している状況にあるのでスキーをもっと楽しむように普及の努力をしていくことの必要性を強調。
３．議長選出　　　水島　秀夫　幹事長
４．書記任命　　　水島、岸田　両事務局員
５．議事録署名人　福地白、長澤光雄 常任幹事
６．議事運営の確認 議　長
７．平成１５年度概況報告　水島幹事長
　別刷総会資料にて概況報告説明
　本年度執行行事で特筆すべきは、去る平成１４年 11 月 20 日（水）に開催された日本スキー指導者協会創立２０周年記念で、行事が成功裡に終了したことは関係各位、会員の皆さんの絶大なるご協力の賜である。単年度の収支は、記念行事を挙行した関係上、ぎりぎりの決算になった。第１７回インタースキーには、本協会も視察を兼ねたツアーで熟年層の掘り起こしを企画しスケールの大きなスキートリップを満喫した。第８回ＳＩＪ親睦ゴルフ大会、第２回みんなで行こうスキー大学では地域を越えた交流が図られた。

第４回ＳＩＪカップフェスティバルニセコ東山は濃霧のため大会は中止となったが親睦会は大いに盛り上がった。第１回ランクアップスキー教室は神奈川県スキー指導員会と共催で行い、シーズン初めの行事として好評を博した。ＳＩＪホームページは広報機関として評価は得ているが予算措置を含め更なる拡充を図る。

１）一般報告
①阿部中央事務局長より前回常任幹事会以降の動きについて別刷総会資料にて報告説明
・年会費未納分への対応・速水副会長のご逝去に際し弔電と献花・収支決算中の会議費は大半が会場使用料など
②大澤事業担当副会長より、別刷総会資料により事業別概況説明があった。
・平成１４年度第２回常任幹事会
・平成１５年度第１回常任幹事会 総会懇親会
・第８回ＳＩＪ親睦ゴルフ大会
・第１回ランクアップスキー教室
・第１７回インタースキー総会ツアー
・第２回みんなで行こうスキー大学
・第４回ＳＩＪカップフェスティバルニセコ東山

２）ＳＡＪ報告　杉崎特別幹事（ＳＡＪ教育本部）
一昨年から機構改革を進めている。財政面では収支バランスを図る。ＩＴ化はデータが揃うようになったので資格の有効期限管理等を検討中、日体協指導者制度もハッキリさせる方向にある。特に会員の減少を背景に受け“検定はなるべく受けやすく、継続性をもたせる”ことを狙いに、分冊して６年経過した教程、教本、検定規定の全面改訂を進めている等の報告があった。発表時期は９月中旬頃

８．議　事
１）平成１５年度事業収支報告及び収支決算報告
①事業収支報告　　大澤事業担当副会長
別刷総会資料の通り報告。
②収支決算報告　　阿部中央事務局長
別刷総会資料の通り報告。
２）監査報告 渡辺監査
別刷総会資料の通り監査報告。
昨年の指摘は改善された。会議用の決算資料はもう少し簡潔にしてはとの所見があった。
３）平成１６年度執行方針・事業計画及び収支予算（案）
①執行方針（案）　水島幹事長
別刷総会資料の通り報告説明。
②事業計画（案）及び収支予算（案）
大澤事業担当副会長
別刷総会資料の通り報告説明。
４）平成１６年度本部会計予算（案）
阿部中央事務局長
別刷総会資料の通り報告説明
以上について満場一致で一括承認された。
５）その他
（１）阿部中央事務局長より物品販売促進について在庫一掃への協力を要請した。
・ステッカー２枚組　・ワッペン
（２）規約改定について　　阿部副会長
第１７条に特別顧問を追記、第１８条の事務局次長を２名（以内）にする件について別紙資料により改正箇所と理由を報告説明。
満場一致で承認された。
（３）役員改選について
①推挙委員会の設置と委員について
阿部中央事務局長より提案がありこれを承認。
推挙委員：近藤晃（北海道）、半沢進（東北）
水島秀夫（南関）、宮沢一英（甲信越）
松本一克（西日本）
阿部雄三（中央事務局長）　以上６名
②会長、監査の推挙と認否
阿部雄三推挙委員より次の通り会長、監査を推挙する旨報告がありこれを承認した。
会　長　田　英夫
監　査　三上　一（東北）　渡辺 忍（南関）
榎本建司（北関）
９．書記解任
１０．議長解任
１１．閉会の辞　近藤副会長　速水副会長の葬儀に関して報告と謝辞のあと閉会を宣した。
以上の議事録を証するため下記に署名する。
平成１５年８月２日
議　　　長　　水　島　秀　夫　印
議事録署名人　　福　地　　白　　印
議事録署名人　　長　澤　光　雄　印

(財)全日本スキー連盟日本スキー指導者協会
平成１６年度 総　会　議 事 録

日　時　平成１５年８月2日(土)13:00～14:30
場　所　第１回常任幹事会と同じ
出席者
名誉役員 菅　秀文　林 権一
現 役 員 田　英夫　近藤 晃　阿部雄三
大澤佑吉　宮沢一英 杉崎壽三男
福地 白　長澤光雄 浦辻 直
水島秀夫　藤木 昇　松本一克
飯田誠一　吉田勇夫 半沢 進
鈴木勘重　丸山恭一 山崎一正
小笠原健一 (代)大熊忠男
監　査　渡辺 忍　荒井哲夫
委　任
常任幹事 綱川千夫　中川利夫　吉田晃一郎
広岡和夫　榎本建司　田子 巌
矢船保夫
監　査 松谷富彦
幹　事 三上　一　岡野秀一　林 茂美
大山重彦　小林 賢　岸田栄吉
遠藤良一　平岡弘一　山本弘茂
伊達教行　安富高行　岩佐忠典
光田 督　柏井昭文　土永 滋
前田信男　末井健作　日野佳弘
徳永富夫　西村幸雄
事務局　高橋正視　高橋イキエ 塚本哲夫
島村一男　水島三千夫 岸田典子
定足数報告
阿部副会長（中央事務局長担当）より役員 21 名委任役員 28 名 合計 49 名。
本会規約第２０条により総会が成立していることを宣言。
今期物故者に黙祷
阿部副会長（中央事務局長）より今期ご逝　去された各先生のご案内があり、水島幹事長　のご発声で黄泉に旅立たれた大先輩のご冥福　をお祈りして一同黙祷。
阿左見 孝先生(H14.8. 5)
藤巻 文司先生(H14.9.25)
安藤 惟晴先生(H14.9.29)
郷津　 勝先生(H15.1.12)
速水　 潔先生(H15.6.25)
（内）逝去された日
１．開会の辞　近藤副会長
２．会長挨拶
近年、スキースポーツへの若者層の減少は大きな問題であり私たちが真剣に取り組むべきテーマである。２１世紀人類は大きな転機を迎え科学の進歩に伴い地球の自然環境を自ら壊している状況にある。“自然”に“人”を戻す大きな役割にもなりうるようスキーの発展に努め、また、正しいスキーを教える組織として発展させていきたい。
３．議長選出　田　会長
４．書記任命　水島、岸田　両事務局員
５．議事録署名人 飯田誠一 幹事（北海道）
半沢　進 幹事（宮城県）

６．議事運営の確認　　議　長
７．平成１５年度概況報告　水島幹事長より
別刷総会資料にて平成１５年度概況報告。
１）一般報告
①阿部中央事務局長より別刷総会資料により報告
②大澤事業担当副会長より、別刷総会資料により事業別概況報告。
２）ＳＡＪ報告　杉崎特別幹事(SAJ 教育本部)
一昨年から機構改革を進めている。財政面では収支バランスを図る、ＩＴ化はデータが揃うようになったのできめ細かい会員管理などを検討中。分冊して６年経過した教程、教本と“検定は受けやすく継続性をもたせる”ことを狙いに、検定規定の全面改訂を進めている。骨子は出来たので発表は９月中旬頃になる等の報告があった。
以上の概況報告について承認。
８．議　事
１）平成 15 年度事業収支報告及び収支決算報告
①事業収支報告　大澤事業担当副会長
別刷総会資料の通り報告。
②収支決算報告　阿部中央事務局長
別刷総会資料の通り報告。
２）監査報告　　　渡辺監査
別刷総会資料の通り監査報告。
昨年の指摘は改善された。
なお、監査から
①会費未納の解消
②会としてのステータスの確保
③各県の実情把握とコミュニケーション
④会費の見直しが要望された。
３）平成 16 年度執行方針・事業計画及び収支予算(案)
①執行方針（案）
水島幹事長　別刷総会資料の通り報告説明
②事業計画（案）及び収支予算（案）
大澤事業担当副会長
別刷総会資料の通り報告説明。
４）平成１６年度本部会計予算（案）
阿部中央事務局長
別刷総会資料の通り報告説明
以上について一括承認された。
５）その他
（１）阿部中央事務局長より物品販売促進について
在庫一掃への協力を要請した。
ステッカー：２枚組３５０円を２００円に値下げ
（２）規約改定について　　水島幹事長
第１７条に特別顧問を追記、第１８条の事務局次長を２名（以内）にする件について別紙資料により改正箇所と理由を報告説明。
満場一致で承認された。
（３）役員改選について
①推挙委員会の委員と推挙について
阿部中央事務局長より推挙委員会の委員紹介
推挙委員：
近藤　晃（北海道)、半沢 進（東 北）
水島秀夫（南関東)、宮沢一英（甲信越）
松本一克（西日本)、
阿部雄三（中央事務局長）　　以上６名
②会長、監査の推挙と認否
阿部雄三推挙委員より次の通り会長、監査を推挙する旨報告がありこれを承認した。
会　長　田　英夫
監　査　三上　一（東北）
渡辺　忍（南関）
榎本建司（北関）
③役員・名誉役員は別表の通り。
なお、各都道府県で総会の時期が異なるため未選任のところがあるが、第１４条２項「役員はその任期 満了後でも、後任者が選任されるまでは、その職務を行う。」を適用。
以上について承認された。
９．書記解任
１０．議長解任
１１．閉会の辞　近藤副会長
以上の議事録を証するため下記に署名する。
平成１５年８月２日
議　　　　長　　田　　　英　夫　印
議事録署名人　　飯　田　誠　一　印
議事録署名人　　半　沢　　　進　印

S.I.J.　シール／ワッペンを付けよう！！

スキーや車、ウエアーの胸を飾って見ませんか

裏ﾋﾟﾝ付ワッペン

シール(２枚組)

在庫棚卸しにつき特別販売を行っております、これを機会にご購入を…。
価格等のお問合せとご注文は、所属のざスキー指導員会にお願いいたします。

平成１６年度　日本スキー指導者協会雪上事業計画

開催日	15年9月7日(日) ～ 8日(月)	H15年12月13日(土) ～ 14日(日)	H16年1月16日(金) ～18日(日)	H16年4月 9日(金) ～ 11日(日)
行事名	第9回 SIJ懇親 ゴルフ大会	第2回ランクアップ スキー教室	第3回 みんなで行こう スキー大学	第5回 SIJフェスティバル ルスツリゾート
会　場	きぬがわ高原CC	奥志賀高原スキー場	朝里川温泉 スキー場	ルスツリゾート スキー場
募　集 人　員	100名	50名	40名	関東東京地区 120名 北海道他 50名
参加費 宿　舎	13,000円 きぬがわ高原CC ｺﾃｰｼﾞ(温泉付き)	15,000円 ｽﾎﾟｰﾂﾊｲﾑ奥志賀	未　定 羽田発 朝里クラッセ ホテル	未　定 羽田発 ルスツリゾート ホテル
内容他	前夜際 きぬがわ高原CC ｺﾃｰｼﾞ(温泉付き)	現地参加 1泊3食講習付 講師 塚脇 誠 元日本アルペン チーム強化コーチ (神奈川県スキー 指導員会と共催)	羽田から 往復航空運賃 宿泊費込 スキー大学には 各都道府県連 経由申込のこと	羽田から 往復航空運賃 宿泊費、ﾘﾌﾄ代込 オプション GSL大会

平成 15 年度 事 業 別 概 況 報 告

	開催年月日	事　業　内　容	会　　場
1	H14年6月2日 参加総数20名	H14年度第2回常任幹事会 役員 16名　他 4名	チサンホテル浜松町
2	H14年8月4日 参加総数41名	H15年度第1回常任幹事会、総会、懇親会 役員 24名　他 17名	
3	H14年10月6日 ～7日 参加総数53名	第8回SIJ懇親ゴルフ大会 宮城県　2 栃木県　7 福島県 4 東京都 17 神奈川 10 千葉県 13	那須チサンCC 前夜祭　りんどう湖 ロイヤルホテル
4	H14年12月14日 ～15日 参加総数43名	第1回ランクアップスキー教室 （神奈川県カービングスキー上達雪上トレーニング共催） 神奈川県中心43名	奥志賀高原スキー場 ｽﾎﾟｰﾂﾊｲﾑ奥志賀
5	H15年1月18日 ～26日 9日間 参加総数20名	インタースキー総会ツアー	ｽｲｽ　シオン　4泊 ｽｲｽ ｸﾞﾘﾝﾃﾞﾙﾜﾙﾄﾞ 3泊
6	H15年1月16日 ～19日 参加総数19名	第2回みんなで行こうスキー大学	朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル
7	H15年4月11日 ～4月13日 参加総数約169名	第４回SIJカップフェスティバルニセコ東山 大会参加123　東京都 39　北海道 55 神奈川 26　千葉県 3	ニセコ東山スキー場 ニセコ東山 プリンスホテル新館

平成 15 年度 決 算 報 告 書

1．収入の部

科　目	予算額	決算額	内訳金額	項　目	予算比増減
繰　越　金	1,253,580	1,253,580		前年度より	
年　会　費 特別会費	1,550,000	795,000 200,000	400,000 395,000	15年度分 過去未納分 20周年記念誌対応	-755,000 200,000
会　議　費 20周年祝賀会	294,000	295,000 1,120,000		常任幹事会、総会	1,000 1,120,000
事　業　費	4,430,000	2,920,580		各事業	-1,509,420
用 品 販売費	100,000	52,950		ﾜｯﾍﾟﾝ、ｼｰﾙ	-47,050
広　告　料	200,000	80,000		20周年記念誌兼第18号会報	-120,000
雑　収　入	500	100,004	100,000 171	賛助金（菅名誉会長14/6/2） 銀行利息	99,504
合　計	7,828,080	6,8171,114			-1,010,966

2．支出の部

科　目	予算額	決算額	内訳金額	項　目	予算比増減
会報作製費	1,500,000	1,928,387		第17号　H13/11	428,387
会　議　費 20周年祝賀会	435,000	493,083 1,120,000		常任幹事会、総会他 ｽｸﾜｰﾙ麹町14/11/20	58,083 -1,120,000
事　業　費	3,945,000	2,673,745		各事業	-1,271,255
用品加工費	40,000	0			40,000
事務所借用料	50,000	50,000			0
通　信　費	50,000	81,480		切手、葉書	31,480
事　務　費	50,000	63,097	40,627 22,470	資料ｺﾋﾟｰ、印刷、送料 議事録、封筒作製	13,097
渉　外　費	50,000	85,200		慶弔費	35,200
雑　　費	50,000	0	0		-50,000
繰　越　金	1,522,939	420,433			-1,102,506
合　計	7,692,939	6,817,114			-875,825

(財) 全日本スキー連盟
日本スキー指導者協会　役員名簿　2003.6 ～ 2005.5

☆は会長推薦、役員空白部分は各ブロック・県の総会時期との関係で届出待ち。

名誉会長	菅　秀文	東京	
名誉顧問	栗林　薫	北海道	
特別顧問	丸山　庄司	長野	
顧問	丹内　正一	青森	
〃	堀　恒也	山形	
〃	岸　英三	山形	
〃	目崎　武美	群馬	
〃	金井英一郎	千葉	
〃	福岡　孝純	東京	
〃	荒井　哲夫	東京	
〃	林　権一	東京	
〃	石田　久夫	神奈川	
〃	片岡　春夫	神奈川	
〃	片桐　匡	長野	
〃	平林　堅	長野	
〃	次井　晨	新潟	
〃	中川　利夫	滋賀	
〃	大館　禅雄	鳥取	
参与	宮本忠五郎	宮城	
〃	松谷　富彦	宮城	
〃	浦辻　直	東京	
会長	田　英夫	東京	
副会長	坂井　敏夫	北海道	
〃	近藤　晃	北海道	☆
〃	半沢　進	東北	
〃	綱川　千夫	北関東	
〃	阿部　雄三	南関東	☆(総務担当)
〃	大澤　佑吉	神奈川	(事業担当)
〃	宮沢　一英	甲信越	☆
〃		東海北陸	
〃	吉田　晃一郎	西日本	
特別幹事	杉崎壽三男	ＳＡＪ教育本部理事	
常任幹事	福地　白	北海道	(副幹事長)
〃	吉田　勇夫	東北	
〃	広岡　和夫	福島	☆
〃	古賀　澄夫	北関東	
〃	小笠原健一	埼玉	☆
〃	長澤　光雄	千葉	☆
〃	山崎　一正	東京	☆
〃	水島　秀夫	南関東	(幹事長)
〃	藤木　昇	神奈川	☆(事務局長)
〃		甲信越	
〃	松本　一克	西日本	(故)
〃	矢船　保夫	和歌山	☆
監査	三上　一	東北	
〃	榎本　建司	北関東	
〃	渡辺　忍	南関東	

幹事	喜澤　一史	北海道	
〃	飯田　誠一	北海道	☆
〃		青森	
〃		岩手	
〃		宮城	
〃		秋田	
〃	鈴木　勘重	山形	
〃		福島	
〃		茨城	
〃		栃木	
〃	丸山　恭一	群馬	
〃	大熊　忠男	埼玉	
〃	林　茂美	千葉	
〃	荻野　恒夫	東京	
〃	高橋　イキエ	東京	
〃	古藤　公昭	神奈川	
〃	水島　三千夫	神奈川	
〃	小林　賢	山梨	
〃	岸田　栄吉	長野	
〃		新潟	
〃		富山	
〃		石川	
〃		福井	
〃		静岡	
〃		愛知	
〃		三重	
〃		岐阜	
〃	仲辻　顕	滋賀	
〃		京都	
〃		大阪	
〃	東野　喜代一	兵庫	
〃	平岡　弘一	奈良	
〃	山本　弘茂	和歌山	
〃		鳥取	
〃	澄田　修	島根	
〃	安富　高行	岡山	
〃	古川　芳伸	広島	
〃		山口	
〃		香川	
〃		徳島	
〃	光田　督	愛媛	
〃	柏井　昭文	高知	
〃	馬場　博巳	福岡	
〃		佐賀	
〃	徳永　富夫	熊本	
〃	西村　幸雄	大分	

中央事務局

局長	藤木　昇	神奈川
次長	高橋イキエ	東京
〃	水島三千夫	神奈川
局員	大宮　秀高	東京
〃	島村　一男	神奈川
〃	岸田　典子	千葉

検定制度改正の要点と検定種目の新旧比較
◎指導員・準指導員検定:　単位制の導入と「合否制」
◎プライズテスト:実践種目講習テスト廃止、事前講習を義務化
◎級別テスト:1～2級とも小まわり種目採用、1級受験には2級所持が条件、2級に認定合格システムを採用

検定種目　新・旧対比表

指導員検定種目　新	旧
A単位　■テールコントロールの技術 プルークボーゲン(中まわり/整地・緩～緩中斜面) シュテムターン(大まわり/不整地・中急斜面) パラレルターン(小まわり/整地・急斜面)	基礎技術 プルークボーゲン・押し出し操作 プルークボーゲン・ひねり操作 プルークボーゲン・傾け操作
B単位　■トップ&テールコントロールの技術 プルークターン(中まわり/整地・緩中～中斜面) パラレルターン(大まわり/整地・急斜面) パラレルターン(小まわり/不整地・中～中急斜面)	応用技術 シュテムターン・大まわり・押し出し操作 パラレルターン・小まわり・ひねり操作 パラレルターン・中まわり・傾け操作
C単位　■トップコントロールの技術 パラレルターン(中まわり/整地・中斜面) パラレルターン(大まわり/整地・中斜面)	発展技術 パラレルターン・大まわり／整地・急斜面 パラレルターン・小まわり／不整地・中急斜面
D単位　理論テスト	理論テスト

準指導員検定種目　新	旧
■テールコントロールの技術 プルークボーゲン　(中まわり/整地・緩～緩中斜面) シュテムターン　(大まわり/不整地・中急斜面) パラレルターン　(小まわり/整地・急斜面)	基礎技術 プルークボーゲン・ひねり操作
■トップ&テールコントロールの技術 プルークターン　(中まわり/整地・緩中～中斜面) パラレルターン　(大まわり/整地・急斜面) パラレルターン　(小まわり/不整地・中～中急斜面)	応用技術 シュテムターン・大まわり・押し出し操作 パラレルターン・小まわり・ひねり操作 パラレルターン・中まわり・傾け操作
■トップコントロールの技術 パラレルターン　(大まわり/整地・中斜面) パラレルターン　(中まわり/整地・中斜面) 制限滑降　ｼﾝｸﾞﾙﾎﾟｰﾙ/整地・中急斜面	発展技術　パラレルターン・大まわり／整地・急斜面 パラレルターン・大まわり／整地・急斜面 パラレルターン・小まわり／不整地・中急斜面 パラレルターン・フリー／不整地を含む総合斜面 パラレルターン・制限滑降／整地・中急斜面
理論テスト	理論テスト

クラウンプライズテスト種目　新	旧	
パラレルターン・大まわり/整地・急斜面 パラレルターン・大まわり/不整地・急斜面 パラレルターン・中まわり/整地・中斜面 パラレルターン・小まわり/整地・急斜面 パラレルターン・小まわり/不整地・急斜面 フリー滑降/総合斜面	総合技能	実践種目講習テスト
	大まわり/不整地を含む急斜面 小まわり/整地・急斜面 小まわり/不整地・急斜面 総合滑降／総合斜面 制限滑降(中～大まわり)／整地・中～急斜面)	規定種目テスト

テクニカルプライズテスト種目　新	旧	
パラレルターン・大まわり/整地・急斜面 パラレルターン`大まわり/不整地・急斜面 パラレルターン・中まわり/整地・中斜面 パラレルターン・小まわり/整地・急斜面 パラレルターン・小まわり/不整地・急斜面 フリー滑降/総合斜面	総合技能	実践種目講習テスト
	大まわり/不整地を含む急斜面 小まわり/整地・急斜面 小まわり/不整地・急斜面 総合滑降／総合斜面	規定種目テスト

1級テスト種目　新	旧	
パラレルターン・大まわり/整地 パラレルターン・中まわり/整地・中斜面 パラレルターン・小まわり/整地 パラレルターン・小まわり/不整地・急斜面 フリー滑降/総合斜面	■カービング要素のターン 大まわり／中～急の適合斜面 中まわり／中～急の適合斜面 総合滑降／総合斜面	実践種目講習テスト
	■スキッディング要素＋カービング要素のターン 中～小まわり／中～急の適合斜面 大まわり／中～急の適合斜面	規定種目テスト

2級テスト種目　新	旧	
パラレルターン`大まわり/整地 パラレルターン・中まわり/整地・中斜面 パラレルターン・小まわり/整地 フリー滑降/総合斜面	■スキッディング要素のターン 大まわり／中～急の適合斜面 中まわり／中～急の適合斜面 総合滑降／総合斜面	実践種目講習テスト
	■スキッディング要素＋カービング要素のターン 小～中まわり／中～急の適合斜面 大まわり／中～急の適合斜面	規定種目テスト

3級テスト種目　新	旧	
パラレルターン・大まわり/整地・中級コース パラレルターン・小まわり/整地・中級コース フリー滑降:連続ターン/整地・中～上級コース	シュテムターン/整地・中斜面 基礎パラレルターン／整地・中斜面	実践種目講習テスト

4級テスト種目　新	旧	
フリー滑降:連続ターン/整地・初～中級コース	プルークボーゲン／整地・緩～緩中斜面 シュテムターン(初歩)／整地・緩～緩中斜面	実践種目講習テスト

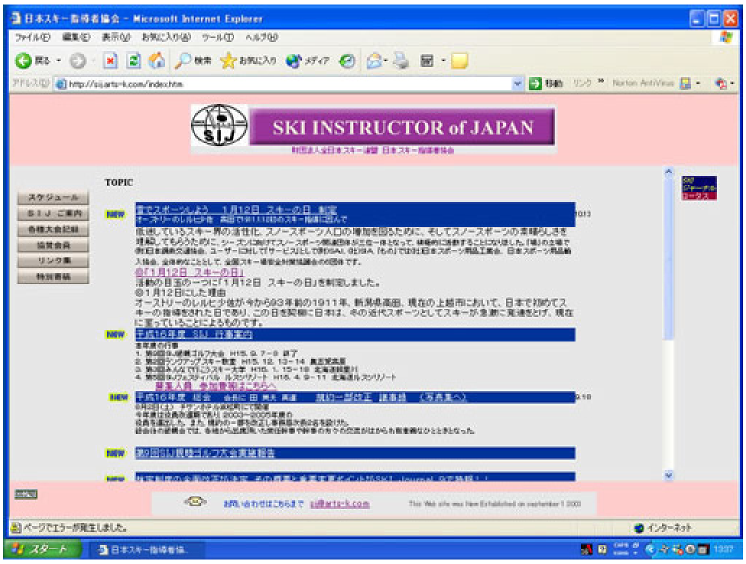
5級テスト種目　新	旧	
フリー滑降:連続ターン/整地・初級コース	プルークボーゲン／整地・緩斜面	実践種目講習テスト

事務局だより

S.I.J.のホームページがリニューアルオープンしまし

各県指とのリンク、読み応えのある寄稿文等々　内容が一新しました

ＵＲＬ　http://sij.arts-k.com/　へ是非お越し下さい。



お問い合せは　E-mail　sij@arts-k.com まで

会費納入のお願い

日本スキー指導者協会の運営は、全国７ブロックの年会費総額１２０万円が基本となっております。総額１２０万円の年会費は、当会の大切なコミュニケーションと情報提供の場である会報の発行にその殆どが費やされ精一杯の状況です。

しかし、滞納気味のブロックもあり当会の運営は財政的に非常に苦しい局面を迎えております。この様な事情から、誠に勝手ではありますが、本年度の会報発行に合わせ請求書を各指導者連盟／指導員会にお届けさせていただきますので、なにとぞ年内に納入して頂きたく切にお願い申し上げる次第です。

新任早々で申し上げ難いことですが、会存続の根幹に関わる事ですので敢えて申し上げました。今後とも会員相互の理解と情報交換の場として、内容の充実した会報をタイミング良く発行して参ります、と共に当会の活動がより活発になるよう努力いたしますので、旧倍にも増してご支援ご鞭撻のほどお願い申し上げます。また、既にご納付を済まされました各位には、心より厚くお礼申し上げます。

事務局長　藤木　昇

≪事務局メモ≫

事務局会議を平成 16 年９月 18 日（木）18:30 ～ 20:30 ロータス（日本橋）で開催
出席者　　阿部副会長　水島幹事長　藤木事務局長　高橋次長　水島次長　以上５名
阿部副会長、藤木事務局長より新体制での抱負とあいさつ後、事務局全般についての調整と検討を行った。主な事項は次の通り。

・SIJ　平成 16 年度財政状況（省略）
・第９回 SIJ 創立 20 周年記念親睦ゴルフ大会収支報告（省略）
・事務局次長の役割分担について
　（１）総務、会計：高橋次長　（２）会報編集、広報全般：水島次長
・会報第 19 号について
　発行時期、紙面構成、原稿依頼先、体裁、発行部数（３万部）等について全般にわたって検討
・事務局会議の開催頻度
　円滑な業務運営のために事務局全般についての調整と意見交換を中心に年３回程を予定

SKI Instructor of JAPAN

****

《編集後記》
　ご多忙にもかかわらず記事をお寄せ頂いた筆者の方々に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。
　創立20周年記念誌をひとつの区切りとして体裁を一新してみました。また、財政面から、編集委員による手作りの会報となり何かとお見苦しい点もあろうかと思われます。何卒忌憚のないご意見をお聞かせ頂ければ幸いです。
　この会報が、皆様の情報交換の場としてご活用頂けることを編集委員一同心より願っております。
今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

** 編集委員 **
水島 秀夫　福地　白　藤木　昇　高橋イキエ
大宮 秀高　島村 一男　岸田 典子　水島三千夫

INSTRUCTOR
日本ｽｷｰ指導者協会会報
(第19号)　　(非売品)
平成15年11月1日発行
編 集 人　編集委員会
発 行 人　田　英夫
印 刷 所　水戸屋紙工株式会社
発 行 所
日本ｽｷｰ指導者協会中央事務局
〒160-0023
東京都新宿区西新宿 3-15-5-419
TEL & FAX 03-3374-3855
E-mail ikie@nifty.com
URL http://sij.arts-k.com/